

この指標で何がわかるの？

実質赤字比率

- ・一般会計等の赤字額がどのくらいあるのかわかります。

「実質赤字比率」は、一般会計等の赤字額が標準財政規模に占める割合です。

この比率が高いほど赤字の程度が大きいこととなります。

なお赤字ではなく黒字の場合には、「該当無し」となり「-」で表示します。

※標準財政規模 …… 地方公共団体が標準的に収入しうる1年間の一般財源の合計額
(市税・普通交付税など)

連結実質赤字比率

- ・市の会計全体で赤字額がどのくらいあるのかわかります。

「連結実質赤字比率」は、一般会計と特別会計等を含めた市で執行する全ての会計の赤字の合計額、つまり市全体の赤字額が標準財政規模に占める割合です。実質赤字比率と同様、比率が高いほど赤字の程度が大きいこととなります。

なお赤字ではなく黒字の場合には、「該当無し」となり「-」で表示します。

実質公債費比率

- ・借金の返済がどのくらいあるのかわかります。

「実質公債費比率」は、一般会計の公債費（借金の返済額）や公営企業会計、広域連合および一部事務組合等の公債費に充てる一般会計からの繰出金などが標準財政規模を基準とした額に占める割合です。この比率が高くなるほど、財政の弾力化が低下し、行政サービスの低下を招くおそれがあります。

上野原市においては、早期健全化基準の25%を下回っています。

将来負担比率

- ・今後、市の負担がどのくらいあるのかわかります。

「将来負担比率」は、一般会計の借金残高や対象会計への繰出金見込額などの今後市が負担しなければならない額が標準財政規模を基準とした額に占める割合です。この比率が高くなるほど、将来世代の負担が多くなります。

上野原市においては、早期健全化基準の350%を下回っています。

資金不足比率

- ・公営企業会計の資金不足がどのくらいあるのかわかります。

「資金不足比率」は、公営企業会計における資金不足額が1年間の営業収入に占める割合です。

この比率が高くなるほど料金収入等で資金不足を解消するのが難しくなります。

上野原市においては、資金不足となる会計はなく、剰余額があることから資金不足比率は「該当無し」となり「-」で表示しています。